

2011 年 10 月 1 日からの 1 年間の介護職員，訪問介護員の離職率が 17%だったことが 8 月 16 日，介護労働安定センターの 12 年度介護労働実態調査で分かった。11 年度調査に比べて 0.9 ポイント上がった。

離職率とは 11 年 10 月 1 日から 1 年間の離職者数を 11 年 9 月 30 日の在籍者数で除し，100 を乗じたもの。

職員の過不足については「大いに不足」，「不足」，「やや不足」と回答した事業所が計 57.4%で，11 年度調査よりも 4.3 ポイント上がった。

調査は労働環境の改善などに向けて介護労働の実

態を把握するもので，1 万 7,247 の介護保険事業所を対象に 12 年 11 月に実施。10 月 1 日の現況について 7,511 事業所から回答を得た（有効回答率 44%）。

その結果によると，回答した事業所で介護労働に従事する約 7 万人の平均年齢は 45.1 歳。役職手当や交通費など毎月決まって支給される税込み賃金（所定内賃金）は平均 21 万 1,900 円。

2012 年度調査から施設長の所定内賃金を別途調べたところ，その額は平均 35 万 4,304 円だった。

（福祉新聞・第 2637 号 2013 年 9 月 9 日）